

プロバスケットボール観戦者の観戦行動特性に関する研究

著者	石澤 伸弘, 永谷 稔
雑誌名	北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要
巻	1
ページ	51-58
発行年	2010
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00000247/

プロバスケットボール観戦者の観戦行動特性に関する研究

The study of the professional basketball spectator's watching behavior

石 澤 伸 弘¹⁾
Nobuhiro ISHIZAWA

永 谷 稔²⁾
Minoru NAGATANI

I. はじめに

レラカムイ北海道(以下, レラカムイ)は, 2007年10月に発足した日本バスケットボールリーグ(JBL)に参戦しているプロバスケットボールチームである。チーム発足1年目のシーズンは8勝27敗で8チーム中8位の最下位に終わり, 2シーズン目は14勝21敗の7位で終わった。過去2年のチーム成績としては「低迷している」と行っても過言ではない状況の中で, 観戦者だけは2年連続でJBL加盟チームのトップを独走中である。道内開催試合(ホームゲーム)での観戦者数を見てみると, 2007年は総試合数18試合で52,729名となり1試合平均では2,929名。また, 2008年は同16試合で56,340名, 1試合平均では3,521名と, 試合数は減ったものの観客数は増加傾向を示した。

近年におけるバスケットボール観戦者の先行研究を見てみるとbjリーグに着目したものが多く, 観戦者層に関する研究(竹田, 2007)や観戦者の満足度に関する研究(高橋, 2008)などが見られた。その中で高橋は「観戦者の

満足度を強く規定する要因はチームへ投影する地元意識」(2008)と述べており, 「チームへの地元意識」が満足度を規定する重要なファクターであることを明らかにした。

これまでプロチーム「不毛の地」と言われた北海道が, 1996年にコンサドーレ札幌(発足時はJFLで現在はJ2, 以下, コンサドーレ), 2004年に北海道日本ハムファイターズ(以下, 日ハム), そして2007年にレラカムイと3つのトッププロチームを抱える全国有数の地域となり, また, 日ハムの「活躍」が後押ししたこともあり, 昨今では道内でのそれらプロチームへの人気は高まるばかりである。このような現状が観戦者の「地元意識」を刺激し, 「他競技の観戦行動も行う観戦者」を生み出している。

このようなことを踏まえ, 本研究ではレラカムイ観戦者の中で, 他競技の観戦行動も行う観戦者の特性を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1) 調査時期

¹⁾ 北翔大学 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科

²⁾ 北翔大学 生涯学習システム学部 健康プランニング学科

本研究を行うにあたり、2009年2月21日(土)に月寒アルファコートドームで行われたJBL公式戦、レラカムイ対日立サンロッカーズ戦時に質問紙調査を実施した。配付数300部に対し、回収数は294部で、有効サンプル数は283部であった。

2) 調査内容

調査内容は以下のとおりである。① 属性(性別、年齢、居住地、職業)、② レラカムイ戦観戦回数、③ レラカムイ戦観戦理由、④ 日ハム戦の観戦状況・観戦頻度、⑤ コンサドーレ戦の観戦状況・観戦頻度、⑥ 観戦者の過去のスポーツ歴。

3) 分析方法

まず、単純集計によってサンプル全体の傾向を把握した。つぎにサンプルを日ハム・コンサドーレどちらも観戦したことがある「3競技観戦者群(3群)」と、いずれか一方観戦したことがある「2競技観戦者群(2群)」、そしてどちらも観戦したことがない「1競技観戦者群(1群)」に分類し、それぞれの特性を明らかにしていった。

Ⅲ. 結果及び考察

1) サンプルの属性

サンプルの属性を以下に示す。

まず、「性別」(表1)では男性が80名で28.3%だったのに対し、女性は203名で71.7%にも及び、大きな開きが見られた。この数値は一見すると偏りがあるように思われるが、前述した竹田の先行研究(2007)においても男性が3割、女性が7割の内訳となっており、妥当な数値と思われる。さらに、当該試合の相手チーム、日立サンロッカーズには「イケメン選手」として絶大な人気を誇る五十嵐圭

選手が在籍、中心選手として活躍しており、当日は五十嵐選手見たさの女性観戦者が数多く来場したことが推察される。

「年齢」(表2)では20代が83名(29.3%)と最も多く、次いで30代が80名(28.3%)で過半数を占めた。以下、40代55名(19.4%)、10代43名(15.2%)、50代15名(5.3%)、60代以上7名(2.5%)の順であった。先の竹田の先行研究(2007)では「30代が最も多い」との結果が示されてはいたが、ここでも「五十嵐効果」が影響を及ぼしたのではないかと思われる。

表1. 性別

	度数	パーセント
男性	80	28.3
女性	203	71.7

表2. 年齢

	度数	パーセント
10代	43	15.2
20代	83	29.3
30代	80	28.3
40代	55	19.4
50代	15	5.3
60代以上	7	2.5

観戦者の「居住地」(表3)では「札幌市内」が72.3%と多数を占め、「札幌市外」の27%を大きく上回った。また、「北海道以外」は0.7%に留まる結果となった。

表 3. 居 住 地

	度数	パーセント
豊平区	31	11.0
中央区	29	10.3
西区	28	9.9
白石区	26	9.2
東区	21	7.4
北区	20	7.1
厚別区	16	5.7
南区	14	5.0
手稲区	13	4.6
清田区	6	2.1
札幌市以外	76	27.0
北海道以外	2	.7

表 4. 職 業

	度数	パーセント
事務的職業	67	23.7
専門的・技術的職業	51	18.0
パートタイム・アルバイト	30	10.6
サービス職業	19	6.7
専業主婦	16	5.7
商工サービス	9	3.2
技能的・労務的職業	6	2.1
農林漁業	5	1.8
管理的職業	5	1.8
その他の自営業	2	.7
農家や個人商店	1	.4
無職	5	1.8
学生	55	19.4
その他	12	4.2

観戦者の「職業」(表 4)では「事務的職業」が23.7%と最も多く、次いで「学生」が19.4%、「専門的・技術的職業」18%、「パートタイム・アルバイト」10.6%の順であった。

2) レラカムイ戦観戦回数

レラカムイ戦の観戦回数(表 5)をたずねた

ところ、「4～6回」が21.2%と最も多く、次いで「初めて」が20.5%、以下、「15回以上」・「2～3回」(19.8%)、「7～14回」(18.7%)となった。結果として全体の5分の4がリピーターということが明らかとなった。JBLのシーズンが10月～4月ということを考えると、道内のレラカムイファンは、月1回弱は観戦におとずれる計算となる。

表 5. 観戦回数

	度数	パーセント
初めて	58	20.5
2～3回	56	19.8
4～6回	60	21.2
7～14回	53	18.7
15回以上	56	19.8

3) レラカムイ戦観戦理由

レラカムイ戦の観戦理由(表 6)をたずねた。この問いは複数回答が可能な項目であった。最も多かった答えは「バスケットボールが好きだから」であり、以下、「レラカムイのファンだから」、「北海道のチームだから」といったところに回答をする観戦者が多かった。

「五十嵐効果」からか「特定の選手のファンだから」との回答も少なくなく、「友人に誘われたから」とほぼ同数であった。

意外に少なかった理由は「家族に誘われたから」であった。先行研究と比べ、本研究の観戦者は若い傾向にあり、その点が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

表 6. 観戦理由

	度数
バスケットボールが好きだから	145
レラカムイのファンだから	130
北海道のチームだから	101
特定の選手のファンだから	51
友人に誘われたから	48
家族に誘われたから	10
対戦チームの応援のため	7
メディアで取り上げられていたから	5
その他	13

4) - 1 日ハム戦観戦経験

表 7 はレラカムイ観戦者の日ハム観戦経験を示したものである。7 割を超える観戦者が日ハムの試合を観た経験を有していることがわかる。

表 7. 日ハム戦観戦経験

	度数	パーセント
経験あり	201	71.0
経験なし	82	29.0

4) - 2 日ハム戦観戦回数

上記で「経験あり」と回答した観戦者にその回数をたずねたものが表 8 である。「15 回以上」と回答した者が最も多く、29.6%にも及んだ。日ハムはパ・リーグにおいて福岡ソフトバンクホークスに次いで観戦者数が多いといわれているが、それを裏付ける結果ともいえよう。以下、「2 ～ 3 回」が23.1%、「4 ～ 6 回」が21.1%、「1 回」が15.1%であり、「7 ～ 14 回」は11.1%であった。

表 8. 日ハム戦観戦回数

	度数	パーセント
1 回	30	15.1
2 ～ 3 回	46	23.1
4 ～ 6 回	42	21.1
7 ～ 14 回	22	11.1
15 回以上	59	29.6

5) - 1 コンサドーレ戦観戦経験

レラカムイ観戦者のコンサドーレ観戦経験を示した(表 9)。4 割弱の観戦者がコンサドーレの試合を観たことがあると回答した。日ハムの 7 割には及ばないが、レラカムイ観戦者の少なからざる者がプロサッカーの試合をも観戦していた。

表 9. コンサドーレ戦観戦経験

	度数	パーセント
経験あり	111	39.2
経験なし	172	60.8

5) - 2 コンサドーレ戦観戦回数

上記で「経験あり」と回答した観戦者にコンサドーレ戦の回数をたずねた(表 10)。「2 ～ 3 回」が28.3%で最高値であったが、同様に多かったのは「15 回以上」の23%であった。北海道での歴史の長さ、あるいは過去の「J1 昇格フィーバー」を考えると、この数字にも納得できるものがある。

以下は「4 ～ 6 回」が18.6%、「1 回」17.7%、「7 ～ 14 回」12.4%の順序であった。

表10. コンサドーレ戦観戦回数

	度数	パーセント
1 回	20	17.7
2 ～ 3 回	32	28.3
4 ～ 6 回	21	18.6
7 ～14回	14	12.4
15回以上	26	23.0

6) - 1 他競技観戦者の分類

前述したとおりにレカムイ観戦者の中で日ハムとコンサドーレ戦の両方を観戦した者を「3 競技観戦者群(3 群)」, いずれか一方観戦した者を「2 競技観戦者群(2 群)」, そしてレカムイ戦のみの「1 競技観戦者群(1 群)」として分類したものが表11である。3 競技観戦者は33.6%存在し, 2 競技観戦者は半数近くの43.1%に及ぶことが明らかとなった。

表11. 他競技観戦者の分類

	度数	パーセント
3 群	95	33.6
2 群	122	43.1
1 群	66	23.3

6) - 2 各観戦者群の年齢比較

各観戦者群の平均年齢を比較したのが図1である。3つの群の平均年齢の差をF検定を用いて分析した結果, 「3 群」と「1 群」の間に5%水準で有意な差がみられた。

3つの競技の観戦経験を持つ「3 群」の平均年齢が最も高い31.5歳であったのに対して, レカムイ戦のみしか観戦したことがない「1 群」の平均年齢は最も低く, 23.2歳であった。この結果から年齢が上がれば上がるほど興味や関心の幅が広がり, 逆に若ければ幅を狭めて, 集中的なものの見方をしているといえるのではないか? スポーツ観戦の場において年齢が若ければ, よりその「競技そのもの」に着目し, 競技中の「テクニック」や「パフォーマンス」に注目を寄せ, 年齢が上がるに従って「競技以外の部分」, すなわち競技を取り囲む様々な要因(例えば「地元意識」など)までに目を向けるようになるものと思われる。その結果, 「3 群」のような観戦行動を取る者が増加してくるのではなかろうか。

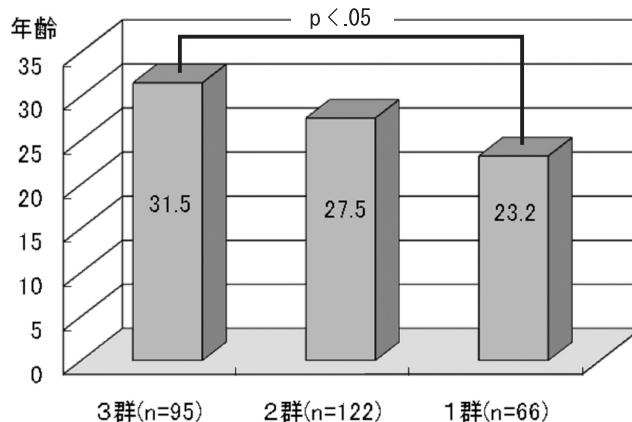


図1. 各観戦者群の平均年齢

7) - 1 「3群」の観戦理由

レラカムイ観戦者の中で日ハムとコンサドーレ戦の両方を観戦し、3競技の観戦経験を持つ「3群」の観戦理由を示した表が表12である。

「バスケットボールが好きだから」、「レラカムイのファンだから」、「北海道のチームだから」といった上位の回答がほぼ同数であった。またここまでの順序は3)の「観戦理由」と同様であるが、3位の「北海道のチームだから」の割合がかなり高い傾向を示し、「最も地元意識が強い群」ということを表しているものと思われる。以下、「友人に誘われたから」、「特定の選手のファンだから」がほぼ同数で続き、「メディアで取り上げていたから」、「家族に誘われたから」、「対戦チームの応援のため」の順序となったが、「メディアで取り上げていたから」からが3)と比べて比較的上位に来ていた。

表12. 「3群」の観戦理由

	度数
バスケットボールが好きだから	47
レラカムイのファンだから	46
北海道のチームだから	44
友人に誘われたから	14
特定の選手のファンだから	13
メディアで取り上げられていたから	4
家族に誘われたから	3
対戦チームの応援のため	2
その他	1

7) - 2 「2群」の観戦理由

表13はレラカムイ観戦者の中で日ハムとコンサドーレ戦のどちらかを観戦し、2競技の観戦経験を持つ「2群」の観戦理由を示した

ものである。

「2群」の順序は3)の「観戦理由」と全く同じものであったが、第1位の「バスケットボールが好きだから」の回答の多さが群を抜いていた。また、2位の「レラカムイのファンだから」の数値も高く、レラカムイ戦の観戦への興味が高いことが窺える。しかし、それ以後の3位「北海道のチームだから」や4位、5位の「特定の選手のファンだから」と「友人に誘われたから」あたりの数値を加えていくと上位とさほど変わらない数値となり、バスケット観戦への関心と、それ以外の要因との差があまりないことが明らかとなった。したがって、「2つの特性を持ち合わせた群」ということがいえると思われる。

表13. 「2群」の観戦理由

	度数
バスケットボールが好きだから	70
レラカムイのファンだから	48
北海道のチームだから	39
特定の選手のファンだから	24
友人に誘われたから	22
家族に誘われたから	4
対戦チームの応援のため	3
メディアで取り上げられていたから	0
その他	8

7) - 3 「1群」の観戦理由

レラカムイ戦のみ観戦した「1群」の観戦理由を示した(表14)。

「1群」の観戦理由の第1位は「レラカムイのファンだから」であり、「3群」や「2群」、あるいは3)の「観戦理由」と全く違う傾向を示した。また、2位の「バスケットボールが好きだから」の割合も高く、まさに

「バスケットボールを観戦することに主眼を置いた群」といえるのではなかろうか？ 3位以降の要因を加えていっても上位2つの数値には及ばず、バスケットボールの熱的なファンによって構成されている集団であることが推察される。

表14. 「1群」の観戦理由

	度数
レラカムイのファンだから	36
バスケットボールが好きだから	28
北海道のチームだから	18
特定の選手のファンだから	14
友人に誘われたから	12
家族に誘われたから	3
対戦チームの応援のため	2
メディアで取り上げられていたから	1
その他	4

8) - 1 観戦者の過去の実施スポーツ

観戦者の過去の実施スポーツを右に示す(表15, 表16)。

観戦者の内、中学校時代にスポーツ系のクラブに所属していた者の割合は61.8%であった。

全体の傾向では「バスケットボール」実施者が50.9%で過半数であり、実施率の高さが目立った。以下、「バレーボール」、「野球」、「テニス」、「卓球」が上位実施5種目であった。

中学校時代の実施スポーツを3群間で比較してみたが、いずれの群も「バスケットボール」が最も高い数値を示し、過半数前後の結果であった。これ以降の種目は若干の違いはあったが、傾向の違いを認めるほどのものではなく。結論として全体と3群間の中学校時

代の実施スポーツに大きな違いは認められなかった。

また、高等学校時代のスポーツ系クラブの所属率は47%であった。ここでも全体、3群含めて「バスケットボール」の実施率が最も高く、3群間の顕著な差も見ることができなかった。

結果として、本研究における観戦行動特性に過去のスポーツ実施は影響を及ぼしていないことが明らかとなった。

表15. 観戦者の過去の実施スポーツ(中学)

	全体	3群	2群	1群
1	バスケット (50.9%)	バスケット (41.7%)	バスケット (56.2%)	バスケット (50.9%)
2	バレー (9.1%)	卓球 (13.3%)	野球 (11.0%)	バレー (9.5%)
3	野球 (7.5%)	サッカー (10.0%)	バレー (9.6%)	バドミントン (7.1%)
4	テニス (6.9%)	テニス (5.0%)	テニス (8.2%)	テニス (7.1%)
5	卓球 (6.3%)	バドミントン (5.0%)	バドミントン (5.5%)	陸上 (7.1%)

表16. 観戦者の過去の実施スポーツ(高校)

	全体	3群	2群	1群
1	バスケット (49.6%)	バスケット (33.3%)	バスケット (54.2%)	バスケット (65.5%)
2	野球 (9.8%)	卓球 (11.1%)	野球 (15.3%)	バドミントン (13.8%)
3	バレー (9.0%)	野球 (8.9%)	バレー (11.9%)	弓道 (6.9%)
4	テニス (6.0%)	バレー (8.9%)	テニス (6.8%)	陸上 (6.9%)
5	バドミントン (6.0%)	バドミントン・サッカー・テニス (6.7%)	弓道 (3.4%)	テニス・バレー (3.4%)

Ⅳ. ま と め

本研究ではレカマイ観戦者の中で、他競技の観戦行動も行う観戦者の特性を明らかにすることを目的としたが、以下のことが明らかとなった。

- 1) レカマイ観戦者は20代から30代の女性
が圧倒的に多い。
- 2) レカマイ観戦者の7割が日ハムの試合
も観たことがある。
- 3) レカマイ観戦者の4割はコンサドーレ
の試合を観たことがある。
- 4) 観戦者の年齢が上昇していくとその競技
を取り囲む様々な要因までに目を向けられ
るようになり、その結果、観戦する競技数
も増えてくるものと思われる。
- 5) 若い観戦者は競技中の「テクニック」や
「パフォーマンス」に最も大きな注目を寄
せているものと思われる。

引用・参考文献

- ・竹田隆行(2007)：bjリーグ観戦者に関する調査 —大分ヒートデビルズを事例として—, 日本スポーツ産業学会 第16会大会号, 125-126.
- ・笹生心太ら(2008)：独立系リーグにおける地域特性を生かしたチームマネジメント —bjリーグ琉球キングスを事例に—, 日本スポーツ産業学会 第17会大会号, 28-29.
- ・高橋豪仁ら(2008)：bjリーグ観戦者に関する調査研究 —大阪エヴェッサのホームゲーム観戦者を事例として—, 日本スポーツ産業学会 第17会大会号, 52-53.
- ・加藤清孝ら(2008)：プロバスケットボール

チーム設立が地方にもたらす経済効果 —
bjリーグ参入を目指す秋田を例に—, 日
本スポーツ産業学会 第17会大会号, 60-
61.